

令和2年度

学校関係者評価
結果報告書



(令和3年3月)

一般社団法人

東予理容美容専門学校

まえがき

本校の校訓は「技を競って 心を磨く～美のスペシャリストの育成」である。今後、持続可能な社会の実現に向けて、自ら主体的に社会づくりに貢献できる人間性豊かな人格の完成を目指すものである。本校では専修学校として「将来、理容業・美容業に従事する者としての使命感をもち、より優れた人間美の創造を実現するための美的感覚や理容技術・美容技術を身に付けた人材を育成する」「理美容における業務を衛生的、安全に実施するための確かな技術とマナーを身に付け、自ら進んでコミュニケーションを図ることができる」「個々の客の要望に応じた理容技術、美容技術を確実に提供できるよう総合的な実践的能力の基礎を身に付ける」を目標に掲げている。

「地域に開かれた信頼される学校づくり」を目指して、修得した理美容技術を生かした地域社会貢献活動にも力を入れ、創意工夫ある教育課程の編成に努めている。この学校関係者評価は、令和3年1月に実施した自己評価を中心に行われた。この報告書はこの学校関係者評価結果をまとめたものである。

I 令和2年度 自己評価の基準及び点検中項目

東予理容美容専門学校は、学校の目標・計画等に沿った取組の達成状況や、それらの取組が適切に行われたどうか等について、従来から積極的に自己点検・自己評価を実施し、その結果を公表するとともに、教育活動や学校運営の改善に活用してきた。令和3年4月には、表1に示した評価基準（10基準）について実施した自己評価結果報告書も併せて公表した。なお、この評価基準は、専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省）に準拠したものである。

表1 令和2年度自己評価の基準及び点検中項目

評価基準	点検中項目
基準1 学校の教育目標	a 学校の教育目標に沿って、教育活動が展開されているか。
	b 社会に貢献できる人材育成に向けてビジョンをもって取り組んでいるか。
	c 学生・保護者等に学校の教育目標を周知しているか。
	d 学校の教育目標は時代のニーズに合っているか。
基準2 学校運営について	a 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。
	b 学校運営について理事会や定期総会で理解・周知を図っているか。
	c 教務・財務などの組織は適切に機能しているか。
	d 教育活動に対する情報公開は適切におこなわれているか。
	e 情報システム化による業務の効率化が図られているか。
	f 人事・給与等に関する規定等は整備されているか。
基準3 教育活動	a 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
	b 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
	c 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
	d キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
	e 実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
	f 職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
	g 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確化になっているか
	h 教科課目の目標を達成できる要件を備えた教員を確保しているか
	i 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や資質向上のための取組が行われているか

基準4 学修成果	a 就職率の向上が図られているか
	b 資格取得率の向上が図られているか
	c 退学率の低減が図られているか
	d 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
機銃5 学生支援	a 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
	b 学生相談に関する体制は整備されているか
	c 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
	d 学生の学内生活環境への支援は行われているか
	e 保護者と適切に連携しているか
	f 卒業生への支援体制はあるか
基準6 教育環境	a 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
	b 防災に対する体制は整備されているか
基準7 学生の受入れ募集	a 学生募集活動は、適正に行われているか
	b 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
	c 学納金は妥当なものとなっているか
基準8 財務	a 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
	b 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
	c 財務について会計監査が適正に行われているか
	d 財務情報公開の体制整備はできているか
基準9 法令等の遵守	a 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
	b 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
	c 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
	d 自己評価結果を公開しているか
基準10 社会貢献・地域貢献	a 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
	b 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
	c 地域に対するオープンキャンパス等を積極的に実施しているか

この令和3年1月に実施した自己評価結果を踏まえて、自己評価結果の客観性や透明性を高めるため、地域有識者、保護者代表、理容関連企業代表者、美容関連企業代表者から構成される学校関係者評価委員に個別に意見を聴取した。今年度は残念ながら、新型コロナウイルス感染症対策のため、学校関係者評価委委員ごとに個別に意見を聴取する形式をとった。

令和2年度の教育活動を振り返り、自己評価の評価基準各項目ごとの評価結果や取組状況、今後の課題や抱負等の説明、自己評価結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、学校関係者評価委員で客観的に評価することを基本とすることを確認した。

具体的には、「自己評価の内容が適切か」「自己評価の内容を踏まえた今後の改善方策が適切か」「学校の重点目標や自己評価の評価項目が適切か」「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か」などを評価するとともに、学校運営の継続的改善を図る観点から専門的立場から助言を頂いた。この学校関係者評価は、東予理容美容専門学校から提出した自己評価結果報告書を中心としているが、同専門学校が公開しているインスタグラムやホームページ等の情報も参考にしつつ実施した。

この報告書は学校関係者評価委員の意見・助言等をまとめたものである。今後、各委員の意見・助言等を教育活動、学校運営等の改善に活用することで、より豊かな教育活動の創造・実現、社会に役立つ人材の育成に向けて取り組んでいきたい。

Ⅱ 評価結果の総表

※ 令和2年度は、学生・学校・理美容業界ともに全てが一変した大変な1年だった。学生にとっては、校外研修や理美容の学生技術大会の中止など、行事がなくなり大変残念だったと思う。学校側においては、休校措置など、これまで経験のないことで大変であったと思うが、テレビ電話などで対応されたことで、コロナ感染から生徒を守りながらも、実習技術の向上に向けて尽

力していただいたことに感謝している。

- ※ 保護者としては、理美容の学課の学修・美容実習の技術だけでなく、福祉理美容やネイリング、まつ毛エクステンション、着付けなど、多岐に渡って専門分野を取り入れることで、就職先や仕事の選択肢が広がり今後の社会人としての現場での可能性が増し、活躍が楽しみである。
- ※ 最重要事項である2月・3月の筆記・実技国家試験に合格し、理美容師国家試験資格を取得することで、それぞれが自分の理美容師人生のスタートラインに立つことができる。理美容業界は、まだまだ続く新型コロナウイルス感染症と向き合い、困難な状況下で経営を行っていかなくてはならず、そのような現場において、本校卒業生が新しい考え方、新しい力を発揮してくれるであろうことを現場の人間として大変期待するとともに信じている。
- ※ 学校に対しては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教育活動が制限され、適切な衛生環境が求められるこの困難な1年間を、生徒に理美容師への夢・希望・意欲を継続的・持続的に持たせ続けて下さったことに、心から感謝する思いである。
- ※ 保護者として、また、現場の人間として生徒それぞれが新しい環境で活躍・飛躍していくことを楽しみにしている。また、今後も社会に貢献できる人材をたくさん輩出し続けることのできる東予理容美容専門学校であってほしいと願っている。